



Hata's デンタルクリニック

お口に健康を、
心に笑いを



忙しい毎日、自分の体、特にお口の中のケア、できていますか？
大阪府堺市で歯科医院を経営している畑崎先生が、
先生方の健康に役立つ情報をお届けいたします。

第6回

子どもの矯正治療について

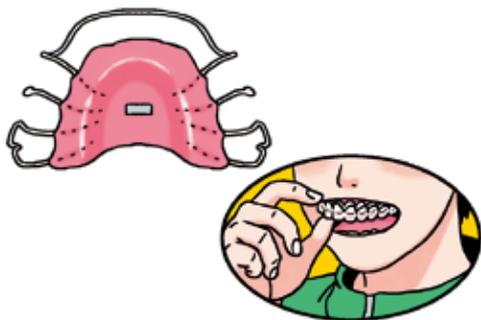
小学校へ歯科健診に行くと、
多くの子どもが矯正治療を受けているのを目にします。

当院でも小児矯正には力を入れており、多くの子どもにも矯正治療を行っています。保護者から「いつから矯正治療を始めるのがいいのか」「小学校低学年から始めて早すぎないか」など、様々なご質問もいただきます。

矯正治療は、まだ成長が残っている14歳〜17歳頃までに終わる「早期治療」と、成長が止まっているから治療を開始する「青年期治療」に分けられます。

小学生の場合は、前者にあたるります。早期治療は、青年期治療に比べて「永久歯を抜かなくてよい場合が多い」「費用が抑えられる」「バランスよく顔の成長を促すことができる」というメリットから希望されることが多いです。ただし、成長途中なので、治療期間が長くなったり、治療後に新たな問題が生じたりすることもあります。

早期治療の場合、「床しよ（入れ歯）



タイプ」や「マウスピース・タイプ」の取り外し型の矯正装置を使うことが多いです。治療を順調に進めるためには、この装置を学校にもつけて行ってもらわなければならない。しかし矯正装置を入れた状態では、国語の音読の時など発音しづらくなります。また、先生や同級生の心無い一言で、いじめにあつたり、「学校に装置をつけて行きたくない」などのトラブルが生じたりします。

矯正治療中のお子さんはナースになっていたりすることも多いので、声かけをされる際には「配慮いだけただいたら幸いです。」